

# SEMINAR HOUSE NEWS NO.193

 大学セミナーハウス  
INTER-UNIVERSITY SEMINAR HOUSE

公益財団法人大学セミナーハウス

192-0372 東京都八王子市下柚木1987-1

電話：042-676-8511 / FAX：042-676-1220

ホームページ：<https://iush.jp/>

セミナーハウス・ニュース No.193 / 2018年1月30日発行

大学セミナーハウスの新食堂棟

## Dining Hall やまゆり

### 留学生会館のご案内

日本の四季を体感し、  
グローバルな交流ができる

### 千人会通信

千人会会員の皆様からの声をお届け

大学セミナーハウス  
FANBOOK  
リニューアル!



### セミナー事業

2017年度開催セミナーの報告  
2018年度主催セミナーの開催予定

### SPA報告

### 法人ニュース

運営幹事会・理事会報告

### 宿泊業務報告

宿泊実績などを掲載

## eラーニングによる教員免許状更新講習



# 大学セミナーハウスの新食堂棟 Dining Hallやまゆり



2015年の開館50周年記念事業として2016年11月に竣工の新しい食堂棟、Dining Hallやまゆり。ネーミングは職員から募集して、八王子市の花でもある「やまゆり」が咲く大学セミナーハウスの中で、地域の方々にも親しんでいただけるようにという思いと、お食事以外にミニ講座やパーティーの会場としてご利用いただける「ホール」の機能をもつことにより決定しました。エントランスの施設名プレートは、書家でもある職員の手によるものです。建築・設計は大学セミナーハウスの建築群のコンセプトを受け継ぎ、セミナーハウスを象徴するような豊かな自然との調和を表しています。研修の合間のお食事、歓談を楽しみ、リフレッシュしていただける場となるようこれからも努力していきます。

2017年4月～9月 ご利用のお客様による

## Dining Hallやまゆり アンケート結果

※このほかコメントも多数お寄せいただきました。改善点として生かさせていただきます。ご協力ありがとうございます。

利用グループ数： **432**  
アンケート回収数： **108**  
回収率： **25%**

総合TOTAL平均  
5点満点中 **4.48**

スタッフについて										
	とても良い		良い		普通		やや不満		不満	
	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数
応対	79	395	21	84	6	18	1	2	0	0
連携	63	315	22	88	16	48	2	4	0	0
<b>TOTAL</b>	<b>210</b>	<b>954</b>	<b>平均</b>	<b>4.54</b>						

店舗について										
	とても良い		良い		普通		やや不満		不満	
	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数
清掃	91	455	14	56	3	9	0	0	0	0
明るさ	89	445	13	52	4	12	0	0	0	0
雰囲気	87	435	17	68	3	9	0	0	0	0
<b>TOTAL</b>	<b>213</b>	<b>1021</b>	<b>平均</b>	<b>4.79</b>						

メニューについて(朝食)										
	とても良い		良い		普通		やや不満		不満	
	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数
値段	45	225	37	148	8	24	3	6	0	0
味	33	165	35	140	15	45	0	0	1	1
品数	46	230	34	136	12	36	2	4	0	0
時間	50	250	30	120	13	39	1	2	0	0
<b>TOTAL</b>	<b>188</b>	<b>817</b>	<b>平均</b>	<b>4.35</b>						

メニューについて(昼食)										
	とても良い		良い		普通		やや不満		不満	
	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数
値段	30	150	28	112	14	42	3	6	0	0
味	38	190	24	96	9	27	3	6	0	0
品数	38	190	23	92	12	36	4	8	0	0
時間	41	205	24	96	8	24	2	4	0	0
<b>TOTAL</b>	<b>152</b>	<b>655</b>	<b>平均</b>	<b>4.31</b>						

メニューについて(夕食)										
	とても良い		良い		普通		やや不満		不満	
	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数
値段	33	165	41	164	13	39	8	16	0	0
味	50	250	30	120	14	42	3	6	0	0
品数	56	280	22	88	12	36	6	12	0	0
時間	54	270	30	120	8	24	2	4	0	0
<b>TOTAL</b>	<b>190</b>	<b>834</b>	<b>平均</b>	<b>4.39</b>						

## 大学セミナーハウス 留学生会館のご案内



日本の四季を体感し、グローバルな交流ができる留学生のための居住施設として、大学セミナーハウスの開館40周年記念事業で建てられたのが留学生会館(全25室)です。2018年4月からは一部日本人学生の入居も可能となり、より国際的な施設としての発展をめざしています。



**居室設備:**エアコン、カーテン、ユニットバス、クローゼット、机、椅子、ベッド、シューズボックス、冷蔵庫、インターネット接続無料。共有設備としてキッチンと洗濯機(無料)・乾燥機(100円)・駐輪場。

**入居期間:**原則として2年ですが、1年の範囲内で延長を希望することができます。

**入居費用:**入居者が負担する費用は次の通りです。

①入居保証金 40,000円(入居時のみ/退館時の個室の清掃費、未払い金にあて、残額がある場合は返還致します。)

②個室使用料 45,000円(電気・ガス・水道料金、共益費を含む)

詳しくはURL <https://iush.jp/>をご覧ください。

**応募方法:**所属大学の留学生担当部門を通して応募してください。

**連絡先:**公益財団法人大学セミナーハウス 留学生会館担当

〒192-0372 東京都八王子市下柚木1987-1

TEL 042-676-8512(直通)

Mail [ishu-r@seminarhouse.or.jp](mailto:ishu-r@seminarhouse.or.jp)

## 消防訓練の様子

年に1回、入居者とセミナーハウス職員とが協力して訓練を行います。このあとの交流会も楽しみ…。





## 会費をありがとうございました

2017年7月～2017年12月 (敬称略)

7月

入江和生、竹村五夫、上野芳康、慶谷伸代、黒田道雄、松島 恵、金谷 憲、古本邦枝、松尾秀雄、厚東偉介、橋本 智、小池生夫

8月

米村貞蔵、小池 滋、栗原 裕、得田保雄、稲田 拓、小沢重男、中村光雄、伊藤意智郎、仙田 哲、柴田 誠、太幡祐己、瀬田裕司、國岡昭夫、小川信子、荒川由美子、鳥海保子 (平成30年分)

9月

野崎昭弘、山田耕司、佐藤東洋士、井出久登、村上陽一郎、新井勝紘、林 勲、村田光二、鈴木俊和、沖塩莊一郎、東 壽太郎

10月

末松安晴、篠崎啓助、木畑洋一、広内哲夫、阿部公輝、川鍋正敏、酢屋善元、伊藤一郎、小和田恆、米満 澄

11月

小川彩子、熊川 忠、城 謙輔、福井憲彦、近藤 保 (平成30年分)

12月

松本幸一、山岸 健、森 久、稲持教昭、横沼健雄、鈴木順子、上田明子、青柳総太郎、堀井啓幸、三浦安子、小谷正博、中野斉子

## 会員からのメッセージ

(敬称略)

○先日、母校(高校)からの打診を受け、6月24日(土)、高校生36名にゲスト講演をしました。大学院研究学生たちと日常あれこれ仕事をしていても、高校生となるともう…。40年前の自分たちを見ているようで妙でした。見かけはオトナだけど実際はコドモ、いや逆に、見かけはコドモだけど今の社会、世界の色々を見ていて意外とオトナかもしれません。エネルギー・食糧・紛争・格差など数々の根本課題に気付かざるを得ないでしょう(かわいそうに)。私たちの親世代は幼少期に戦火の中を生き残った世代でしたが、やや平和であった私たち世代は次の彼らの西暦2050年以降のどこかを下支えしなければと思います。

**上野 芳康**

○益々の御発展をお祈り申し上げます。**慶谷 伸代**

○ますますのご発展をお祈りします。**黒田 道雄**

○おかげさまで今年も元気で誕生日を迎えることができました。大学セミナーハウスの益々のご発展をお祈りいたします。**松島 恵**

○ますますのご発展をお祈り致します。**松尾 秀雄**

○2014年3月の定年後、たまたまご縁のございました岐阜県中津川市にある「中京学院大学」に2泊3日の日程で「通学中」!!「あ」という間の1週間です。ちょっとつかれますが…**厚東 偉介**

○この7月で85才の誕生日を迎えました。セミナーハウスの千人会員で開館以来続けてきましたことをありがたく感謝しております。まだ活躍中で国際会議にも発表しています。**小池 生夫**

○一層の発展を祈念しております。**栗原 裕(愛知大学)**

○大学セミナーハウスの益々のご発展を祈ります。**得田 保雄**

○この3月に他界いたしました。退会のお届けと共に最後の寄付をさせていただきます。**小沢 重男 代理**

○皆様のご活躍を拝読させていただいています。創設当時がなつかしく、飯田先生、上代先生、一番ヶ瀬先生方のお言葉が思い出されます。**小川 信子**

○八十一歳を迎えました。担癌者として二年半。何とか生き延びて、外の仕事も、執筆も、結構忙しく、また時にチェロのステージもあり、もう少し生きるつもりですが、さて神様は何と御言でせうか。

**村上 陽一郎**

○今年も元気のうちに誕生日を迎えることができ、感謝しています。退職し10年が過ぎました。加齢現象と楽しく向き合っています。セミナーハウスの益々のご発展をご祈念申し上げます。**鈴木 俊和**

○誕生日のお祝いのお言葉をいただきありがとうございます。大学セミナーハウスが真理探究の場として、また良き交流の場として多くの人たちに利用されることを、と願っております。**熊川 忠**

○時がたつにつれて、大学セミナーハウスでのさまざまなセミナーがよみがえってきます。**山岸 健**

○3月末のゼミナール春合宿もあと2回になりました。大切に運営したいと思っています。**森 久**

○今年も何とか誕生日を迎えることが出来、感謝しています。大学セミナーハウスのますますの御発展をおいのりいたします。

**横沼 健雄**

○昨年は50周年記念おめでとうございました。多忙と体調を崩し、会費の方も失礼してしまいました。お許しください。よき新年をお迎え下さいように祈っております。**鈴木 順子**

○セミナーハウスのお働きを感謝いたします。**上田 明子**

○感謝をこめて、会費お送り申し上げます。**青柳 総太郎**

○パスデーカードをありがとうございました。学生諸氏とともにお世話になってから40年近くになるのですね。セミナーハウスにまた伺いたいです。**堀井 啓幸**

○開館50周年おめでとう存じます。今ほど「地に平和を」という願いが大切な時はないように思われます。大学セミナーハウスの使命ですね。**三浦 安子**

○今年もお世話になりました。来年も、どうぞよろしく願います。

**中野 斉子**

## 千人会の皆様へ

先日、松下館屋上の「真理の鐘」についてのホームページ記事を書いていて、当時の学生さんがうれしそうに、誇らしげに、鐘の傍らで写真を撮っている様子を想像しました。開館から今日、そして未来においても、ご利用者の皆様にセミナーハウスで過ごした時間が心の財産だと思っていただけるよう努めていきたいと思っています。



## 千人会のご案内

千人会は、大学セミナーハウスを支えるための個人からなる後援組織として発足しました。大学セミナーハウスは、今後も単なる宿泊施設としてではなく、大学間の壁を越えた知的出会いの場として、また、地域の人々や社会人にも開かれた研修施設として、さらなる発展をめざしてまいります。千人会にご関心を寄せていただければ、ぜひお問合せください。

**「人の善意によって経営が支えられるということは最も理想の形態である」**

—千人会第1号会員 故山内恭彦先生(理学博士・東京大学名誉教授)—

### 千人会会費

A会員 年額10,000円 B会員 年額 5,000円  
C会員 年額 3,000円 終身会員 100,000円

### お問合せ先

総務課 TEL 042-676-3081  
FAX 042-678-4734  
MAIL soumu-g@seminarhouse.or.jp

## 平成29年度運営幹事会報告

1. 理事長挨拶
2. 大学セミナーハウスの紹介(スライドショー上映)
3. 法人からの説明と質疑応答
4. 情報交換会

平成29年10月25日開催

平成29年度運営幹事会が、平成29年10月25日(水)午後3時から6時10分、大学セミナーハウス「交友館セミナー室B」とDining Hallやまゆり(情報交換会会場)にて開催された。

運営幹事出席大学:青山学院大学、桜美林大学、慶應義塾大学、国際基督教大学、駒澤大学、創価大学、中央大学、日本女子大学、立教大学、早稲田大学(運営幹事14大学中10大学出席)  
大学セミナーハウス出席者:理事長、館長、専務理事、総務課長、宿泊事業課長、セミナー事業課長、eラーニング支援室長、国際関係事業担当

### 1. 理事長挨拶

2017年6月より就任のあいさつと大学セミナーハウスは大学共同の宿泊研修施設であるため、運営幹事の皆様にも運営の主体という意識でご参画をお願いする旨、挨拶があった。

### 2. 大学セミナーハウス(スライドショー上映)

### 3. 法人からの説明と質疑応答

法人より平成30年度事業計画の概要について説明を行った。出席の運営幹事より新食堂棟についての質問、施設修繕・改築・建替え等に関する中長期計画立案の重要性の指摘などがあった。

### 4. 情報交換会

Dining Hallやまゆりにてパーティー料理の試食も兼ねて行われた。和やかな雰囲気の中、大学の様子やセミナーハウスの可能性など貴重なお話を伺える時間となった。以下のような資料については各運営幹事からのお申し出により、送付、または学内配付にご協力いただけることとなった。

- ・ドローン飛行についての利用案内
- ・大学セミナーハウスリーフレットと料金表
- ・大学セミナーハウスFANBOOK(大学生向け案内冊子)
- ・留学生短期滞在応援プラン紹介資料

さらに、会員大学の付属・係属小中高を対象とした割引プランの情報などにも関心を寄せていただき、新しい利用者拡大のヒントも得られたため、今後の運営に反映させていくものとする。

## 第25回理事会報告(平成29年度第3回)

1. 2018年度(平成30年度)事業計画(案)承認
2. 公益財団法人大学セミナーハウス非常勤職員就業規則の制定承認
3. 公益財団法人大学セミナーハウス定款の変更承認

平成29年12月1日開催

第25回(平成29年度第3回)理事会が、平成29年12月1日(金)午後4時から5時45分、桜美林大学四谷キャンパス(千駄ヶ谷)において、理事7名(理事総数11名)監事2名の出席のもと開催され、全議案滞りなく承認された。

### 1. 2018年度(平成30年度)事業計画(案)について

大学セミナーハウスは、財政的には収益の中核である宿泊数の増加・安定をはかりながら、設立時の理念を具体的に実現し「大学という機構の外にあって、大学教育並びに大学相互の交流に協力する」という使命を果たすことが求められている。

2018年度(平成30年度)事業計画を実現するための重点6項目を以下の通りとして、それぞれについて具体的な施策をあげた。

- I. 宿泊者拡大施策の展開
- II. セミナー事業の充実
- III. 留学生支援事業の継続・充実
- IV. 広報活動の強化と連携・協力体制の構築
- V. 財政の基盤強化
- VI. 法人としての基盤整備

### 2. 公益財団法人大学セミナーハウス非常勤職員就業規則の制定について

制定のポイントは下記の3点である。

- ①効率的勤務体制構築のため1か月の変形労働時間制を導入する。
- ②勤務種別(ABC)は事前に勤務シフトで明示することとし、始業及終業の時刻は、業務の都合により繰り上げ又は繰り下げを行うことができる。
- ③B勤務における仮眠時間については、労働時間とみなし賃金を支給する。

### 3. 公益財団法人大学セミナーハウス定款の変更について

eラーニングによる教員免許状更新講習について平成29年度から当法人の講習コンテンツと受験システムを利用しながら地方の大学等に受講受付、修了試験の実施、修了証の発行手続を委託する事業を展開しているが、それに伴い定款第4条2項「前項の事業は、東京都において行うものとする」を「前項の事業は全国において行うものとする」に変更する必要が生じた。「東京都」から「全国」への変更により、行政主管は「東京都」から「内閣府」となる。

## SPA報告

2016年12月1日～2017年12月31日

ご利用者名	人数	プログラムの主題
多摩信用金庫たましん塾様	14	リーダーシップの育成
大妻女子大学林原ゼミ様	24	上級生と下級生の関係づくり
東京学芸大学女子サッカー部様	16	チーム力強化
千葉大学新入生オリエンテーション合宿様	55	仲間づくり
中央大学新入職員研修様	8	チームで働く意識を育てる
株式会社メルカリ様	9	メンバーの関係づくり
幼体連スポーツクラブ様	26	チーム作り
株式会社オカコー様	43	より高い目標を達成するためのチーム作り
桜美林大学藤木ゼミ様	16	より高い目標に挑戦する
工学院大学セキュリティ科学研究室様	9	仲間と協力して課題を解決する
まじかるすたあ様	41	異年齢間のコミュニケーション
早稲田大学岡部ゼミ様	35	3年生と4年生の交流
明星大学人文学部国際コミュニケーション学科様	40	チームビルディング
多摩信用金庫様	36	社会人基礎力養成(特にコミュニケーション力)



# 宿泊業務報告

## ◆平成29年度上期の宿泊利用者数 17,313人

平成29年度上期宿泊利用者数は17,313人で、前年度が19,298人でしたので、前年度と比較して1,985人の減少でした。

区分利用人数は協会員校7,773人(-1,637人)で、前年比82.6%でした。(内訳は協会員校-1,314人、留学生短期滞在応援プラン-323人)減少の要因として協会員校の退会、短期留学生応援プランの減少があげられます。

一般校は6,819人(+170人)で前年比102.6%でしたが、賛助会員の636人が含まれていますので、実質6,183人(-466人)となります。

社会人は2,721人(-518人)で前年比84.0%ですが、社会人636人は今回賛助会員にカウントされており、社会人の枠から外しています。賛助会員の社会人利用を含めれば、社会人は118人の増加になります。

来年度は協会員校、一般校の利用促進が最重要課題になります。

- \*一般校には賛助会員636人が含まれる。(30年度統計より賛助会員区分を新設予定)
- \*主催セミナーは会員校を含む

## ◆区分利用状況 平成29年度

宿泊延利用人数全体に占める区分別の構成比は表1に示す通りです。

<表1> 宿泊延べ人数表

年度	平成29年度		平成28年度	
	宿泊延べ人数	構成比	宿泊延べ人数	構成比
会員校	7,773	44.9%	9,410	48.7%
一般校	6,819	39.4%	6,649	34.5%
(賛助会員)	(636)	(3.7%)		
社会人	2,721	15.7%	3,239	16.8%
合計	17,313	100.0%	19,298	100.0%

## ◆平成29年度上期の稼働率は33.9%

29年度上期の営業日数は183日で、宿泊室(宿泊定員279人)の年間平均稼働率は33.9%でした。

尚、ご参考までに利用の多かった協会員校を紹介します。

<表2> 協会員校利用上位10校

●宿泊延べ人数			●利用件数		
1	法政大学	672	1	首都大学東京	20
2	首都大学東京	652	2	法政大学	17
3	中央大学	604	3	中央大学	15
4	創価大学	480	4	帝京大学	9
5	東洋大学	386	5	創価大学	8
6	早稲田大学	361		上智大学	8
7	上智大学	314	6	東洋大学	7
8	帝京大学	250		駒澤大学	7
9	桜美林大学	205	7	早稲田大学	6
10	東京学芸大学	173	8	桜美林大学	5
				東京外国語大学	5
				立教大学	5
				芝浦工業大学	5
				電気通信大学	5
			9	東京学芸大学	4
				大妻女子大学	4
			10	千葉大学	3
				明星大学	3
				工学院大学	3

最新の宿泊プランは、ホームページをご覧ください。



# 平成29年度 eラーニングによる教員免許状更新講習

大学セミナーハウスでは、教員免許状更新講習をeラーニングにより実施しているが、現在(平成29年4月1日から12月13日まで)の講習申込者は延べ288名である。本法人のeラーニングによる教員免許状更新講習の特色は下記のとおりである。

1. 全講習、幼・小・中・高教諭対象。
2. 全科目受講も部分受講も可能。
3. 年間を通じ、申込みれば直ぐ受講・受験が可能。
4. 各科目、体験動画で前もって内容をイメージできる。
5. パソコンかスマートフォンでいつでも、どこからでも受講可能。
6. 試験会場で、都合の良い時期に受験可能。
7. 試験終了直後に合否結果が判明。合格者にはその場で履修証が手渡される。

本システムは、インターネットに繋がるパソコンやスマートフォンがあれば、特殊なソフトのインストールや機器の接続等の面倒な手間は不要で、簡単に受講ができる便利さがある一方、本人確認の必要上、試験は監督者のいる試験会場で行う必要がある。そのため、各大学に協力を仰いでいたところ、幸いなことに昨秋から、関西国際大学様(兵庫県)と、活水女子大学様(長崎)にご協力をいただけることとなった。現在、受講者は試験会場を東京、兵庫、長崎から選ぶことが可能となっている。今後も引き続き、遠方からの受講者に試験会場の便宜を図れるよう、各方面に協力を仰いでいきたい。

### 【お願い】

eラーニング受講者への試験会場のご提供等、さまざまな形でのご協力をご検討いただける大学様は、大学セミナーハウスeラーニング支援室(TEL 042-676-8532 Mail e-learning@seminarhouse.or.jp)までご連絡、お問合せいただければ幸いです。

## 2017年度開催セミナーの報告

### <大学生・社会人を対象とするセミナー>

\*はセミナー企画（運営）委員、\*\*はセミナー企画（運営）委員と講師を兼ねる

セミナー名・テーマ	開催日	講師・企画（運営）委員	参加者数(定員)
第2回吉笑ゼミ。(会場：東京大学)	9月2日(土)	立川吉笑(落語家)、森田真生(独立研究者)	102名(180名)
第6回E Uセミナー	9月22日(金) ～9月24日(日)	Mr.Viorel ISTICIOAIA-BUDURA(駐日欧州連合大使)、渡邊啓貴(東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授)**、太田瑞希子(亜細亜大学国際学部講師)**、小久保康之(東洋英和女学院大学国際社会学部長・教授)**、武田健(東海大学政治経済学部講師)**、田中素香(中央大学経済研究所客員研究員、東北大学名誉教授)**、中西優美子(一橋大学大学院法学研究科教授)**、蓮見雄(立教大学経済学部教授)**、福田耕治(早稲田大学政治経済学術院教授、日本E U学会理事長)**	76名(80名)
憲法を学問するⅡ	11月11日(土)～ 11月12日(日)	樋口陽一(東京大学名誉教授・東北大学名誉教授)、石川健治(東京大学法学部教授)、蟻川恒正(日本大学大学院法務研究科教授)、木村草太(首都大学東京法学系教授)、穴戸常寿(東京大学法学部教授)	47名(80名)
第3回吉笑ゼミ。(会場：京都大学)	12月17日(日)	立川吉笑(落語家)、光嶋裕介(建築家)	37名(180名)

### <大学教職員を対象とするセミナー>

\*はセミナー企画（運営）委員、\*\*はセミナー企画（運営）委員と講師を兼ねる

セミナー名・テーマ	開催日	講師・企画（運営）委員	参加者数(定員)
第7回新任教員研修セミナー	9月4日(月)～9月6日(水)	有賀清一(桜美林大学講師)、村山光子(明星学苑法人本部企画部課長)、佐藤順子(セミナーハウス・ファシリテータ)、菊地滋夫(明星大学副学長・教授)**、荒木晶子(桜美林大学教授)**、江夏由樹(帝京大学教授)**、史 傑(電気通信大学教授)**	32名(40名)
第35回大学職員セミナー (法政大学市ヶ谷キャンパス) 大学職員の可能性を広げよう —大学のグローバル化を牽引する職員 を目指して(第1回)—	7月14日(金)	宮下明大(立命館・東京キャンパス所長)、近藤清之(法政大学常務理事)*、青木加奈子(高崎経済大学研究グループ 研究支援チーム)*、岩崎宏政(明治大学社会連携事務室事務長)*、大久保陽造(中央大学入学センター入学企画課課長)*、山本真一(桜美林大学大学院・大学アドミストレーション研究科教授)*	38名(120名)
第36回大学職員セミナー 大学職員の可能性を広げよう —大学のグローバル化を牽引する職員 を目指して(第2回)—	11月24日(金) ～11月25日(土)	眞谷国光(早稲田大学国際部国際教育企画課兼留学センター・国際プログラムコーディネーター)、近藤清之(法政大学常務理事)*、青木加奈子(高崎経済大学研究グループ 研究支援チーム)*、岩崎宏政(明治大学社会連携事務室事務長)*、大久保陽造(中央大学入学センター入学企画課課長)*、山本真一(桜美林大学大学院・大学アドミストレーション研究科教授)*	27名(40名)

## 各セミナーの実施報告

### ■ 第35回大学職員セミナー

今年度の大学職員セミナーの第1回として宮下明大氏を講師に迎え、法政大学市ヶ谷キャンパスでセミナーを実施した。「グローバル時代の学生募集—アドミッションのマインドとサイクル—」と題し



て、海外からの学生受入をめぐる国内での学生募集戦略を下敷きに、どのように留学生マーケットの独自性を分析し、現場から情報を得て、大学の政策として練りあげ、アドミッションのサイクルを回していくかについて具体的な事例を交えながら講演していただいた後、これを踏まえて大学のグローバル化の意味とそこの大学職員の役割をテーマにワールドカフェ方式のグループ討論を行った。

各大学の国際化の悩みを少しでも解消する場を設けようという試みだったが、参加者からは「APU(立命館アジア太平洋大学)での学生募集の具体的な経験談(成功例や失敗例)を聞くことができ、大変に参考になった」「入試戦略のみでなく大学の職員としてどうあるべきかという点まで学ぶことができ、貴重な時間となった」との感想が寄せられた。

### ■ 第7回新任教員研修セミナー

第1日は、このセミナーの「学び合いの場」をつくるSPA(Seminar house Project Adventure)プログラムからスタートした。参加教員自らがアクティブ・ラーニングの主体的な参加者とな



って体験した。「体を動かす中でゲーム感覚の動機づけと心理的な打ち解けの環境をつくることができた。グループの一体感を一気に引き上げる効果があり、初日の配置がとて有効だった」「一つひとつのアクティビティがアクティブ・ラーニングにつながっていて、考えさせられることも多々あった」「チームワークを意図的に高めることは難しい。このSPAプログラムでは自然にいつの間にかチームワークが高まっていた」などアクティブ・ラーニングを実践していくうえで何が必要なのか、多様な他者と協働するためにはどのように関係を作ればよいのかなどを考えるきっかけとなった。

第2日は、6つのグループに分かれてアクティブ・ラーニングの実践例の講演と授業への導入をめぐるグループワークを行った。

●アクティブ・ラーニング講座①「学生参加型授業の実践—多様性が活きる学びを目指して—」（菊地滋夫氏）では、参加者から「BRD（Brief Report of the Day、授業時間内に完成させる小レポートの積み重ねを軸とした授業）方式は学生の主体性を引き出す有効な教育方法だ。早速、自分の授業にも取り入れたい」など多くの共感が寄せられた。

●アクティブ・ラーニング講座②「問題意識の共有と授業改善」（史傑氏）では、「アクティブ・ラーニングの一般的な手法は複数組み合わせることが可能であり、工夫次第で教育効果を高められる。特に今回自分のグループで取り上げたSTT（Student Team Teaching 学生チームティーチング）は、すぐに自分の授業に導入したい」と具体的な授業改善のアイデアが得られたとの感想が寄せられた。

●アクティブ・ラーニング講座③「多様な学習方法を前提とした効果的な授業運営方法」（荒木晶子氏）では、「学生の学習スタイルは、多様であり、それに対応したアクティブ・ラーニングを組み合わせることが重要」との感想が寄せられた。

最終日のシンポジウム「現代大学教育論」では、これまでの2日間の学びをさらに深めることができた。

#### ●シンポジウム

有賀清一氏「学生の参加を引き出す学習環境構築の取り組みpart3」の発題では、教科書の電子化の取り組みが紹介された。参加者からは「主体的（マーク機能、授業内外の学習態度）かつ協働的（マーク機能の共有）な学びを推進するアクティブ・ラーニングのメディアとして今後も注目して学びたい」など大きな関心を呼んだ。

村山光子氏「困難を抱える学生の理解のために—合理的配慮を踏まえて—」の発題では、年々増加傾向にある発達障害の学生に対する支援の在り方についての実践例が紹介された。参加者からは「“合理的配慮”をどこまで行うかはつくづく難しいと感じた。特に、学生本人が学習障害であることに気付いていない場合、手厚い支援が反対に過干渉となり、煙たがられることを懸念している」など対処の難しさや悩みの発言が多く聞かれた。

3日間のセミナーを終了して、参加教員からは「異なる専門分野を持つ先生方とグループワークやグループディスカッションを行うことによって“学生参加型授業”がいかなるものなのか、体験できてよかった」「多様な論点、現在の動向などがバランスよく取り入れられていて、まさにアクティブ・ラーニングを体感しながら学ぶことができた。仲間の先生とも情報交換ができたことで視野が広がった。これを励みに本学に戻り活かしていきたい」などの感想が寄せられている。

#### ■ 憲法を学問するⅡ

昨年に続く今回の憲法セミナーは、樋口陽一氏と蟻川恒正氏の対論「憲法判例：法律家の秘儀が、公共世界の案内図か—判例のなかに社会像を読む—」からスタートした。分科会の講師4人によるパネル・ディスカッションを挟んで、4つの分科会に分かれて議論した。第1分科会「家族と個人」は石川健治氏、第2分科会「経済の自由と公正」は蟻川恒正氏、第3分科会「文化と国家」は穴戸常寿氏、第4分科会「内心の自由」は木村草太氏が問題提起しながら参加者とともに議論した。参加者のアンケートを見ると「憲法判例を批判的に読む方法が理解できた」、「多角的に物事を見ることができた」、

「色々な論点、多様なバックグラウンドを持った方が参加しており、法律家の観点だけでなく一般の方の意見を聞くことができたことが特によかった」「日頃は接触が少ない社会人の方とも憲法について議論でき、改めて一般常識が大切だと思った」などの感想が寄せられた。本セミナーは、とかく政治的・党派的な文脈で扱われがちな憲法について、「憲法を学問する」ことの重要性を浮き彫りにしたものとなった。



#### ■ 第36回大学職員セミナー

今年度の2回目の大学職員セミナーでは、大学のグローバル化を牽引している職員として眞谷国光氏を講師に迎え、大学のグローバル化と職員の役割をテーマに掲げ、議論した。



初日の眞谷氏の基調講演「海外留学プログラムの開発と運営について—早稲田大学の事例より—」では、大学における「海外留学」の開発と運営は、どのようにあるべきか、留学プログラムの実際の開発経験や運営面での工夫と課題、リスク管理など早稲田大学の事例についての多くの示唆に富む具体的な内容のお話があった。この後、参加者は「学生の成長を促す『海外プログラム』の提案」という与えられた課題を4グループに分かれて、延べ5時間以上にわたり意見を出し合い、試行錯誤の末、一つの提案書にまとめたものを発表し合い、協議した。参加者からは、「早稲田大学の先進的な取組の説明が聞け、わが校に応用できる可能性が見つかった」、「（グループディスカッションでは）いろいろな意見を出し合いながら力を合わせて一つの事を達成するという行為が新鮮だった。学内で行う業務の場合、上下関係に伴うため純粋に意見を出せないこともあるため」などの感想が寄せられた。「聞く」だけでなく、「考える」「ディスカッションする」「プレゼンテーションする」を盛り込んだ、内容の濃いセミナーとなった。

#### ■ 第6回 EUセミナー

【特別講演】9/23

テーマ：Update on the EU-Priorities and Challenges-  
講演者：Mr. Viorel ISTICIOAIA-BUDURA駐日欧州連合大使  
随時通訳：鶴田知佳子 東京外国語大学教授

#### ●各分科会テーマと講師

<第1分科会>テーマ：イギリスのEU離脱 — 単一市場と関税同盟へのアクセス — / 指導講師：田中素香氏、太田瑞希子氏

<第2分科会>テーマ：成功ゆえの反動 — EUの「東」 — / 指導講師：蓮見雄氏、中西優美子氏

<第3分科会>テーマ：EUの民主的ガバナンスと市民社会 / 指導講師：福田耕治氏、武田健氏

<第4分科会>テーマ：ヨーロッパのポピュリズム / 指導講師：渡邊啓貴氏、小久保康之氏

参加状況：亜細亜大学21名、青山学院大学2名、慶應義塾大学2名、白百合女子大学1名、東京外国語大学11名（内特別講演参加者4名を含む）、東洋英和女学院大学9名、一橋大学8名（内特別講演参加者1名を含む）、立教大学11名、立正大学8名、早稲田大学1名、高校生1名、社会人1名（計76名）



ご参加の皆様には夜を徹して課題の調査や発表用資料の作成に熱意をもって取り組んでいただきました。その成果となる最終発表では、発表後の質疑応答にも活気があふれ、真剣に議論が展開されました。内容の詳細はホームページの実施報告をご覧ください。



## 2018年度主催セミナーの開催予定

### <大学生・社会人を対象とするセミナー>

セミナー名	開催日	講師・企画（運営）委員	参加者定員
第7回EUセミナー	9月28日（金）～30日（日）	太田瑞希子（亜細亜大学講師）、押村高（青山学院大学副学長）、小久保康之（東洋英和女学院大学教授）、武田健（東海大学講師）、田中素香（中央大学経済研究所客員研究員・東北大学名誉教授）、中西優美子（一橋大学大学院教授）、蓮見雄（立教大学経済学部教授）、福田耕治（早稲田大学教授・日本EU学会理事長）、渡邊啓貴（東京外国語大学大学院教授）	未定
憲法を学問するⅢ	10月6日（土）～7日（日）	樋口陽一（東京大学名誉教授・東北大学名誉教授）、石川健治（東京大学法学部教授）、蟻川恒正（日本大学大学院法務研究科教授）、木村草太（首都大学東京法学系教授）、宍戸常寿（東京大学法学部教授）	未定

※このほか、国際セミナーを企画準備中。

### <大学教職員を対象とするセミナー>

第8回新任教員研修セミナー：9月3日（月）～5日（水）、第37回大学職員セミナー：7月6日（金）、第38回大学職員セミナー：10月18日（木）～19日（金）

## 館長室から 大学セミナーハウス 館長 鈴木康司

今年は寒さが早く来たせいでしょいか、セミナーハウスの木々の葉も例年にも増して赤、黄の鮮やかな模様を織りなしています。1945年に敗戦を迎えてから70年以上、日本は戦火から遠ざかり、他国に戦を仕掛けることもなければ、他国から侵略されることもない平和を享受してきました。ただ、昨今では近隣に何をやるかわからない独裁国があるせいでしょいか、以前のように戦争を遠い国の出来事としてではなく、身近なこととしてとらえようとする政府関係者の発言やメディアの論調なども増えています。

現在の社会の核をなしている世代は戦争を知らない人ばかりですから、実際に何か起きたらどうすべきか、不安を感じる人が多いようです。北朝鮮のミサイルが日本海に落下したり、日本列島をまたいで太平洋に落下したりすることに、テレビは報道し、心配顔の人々のインタビューが流されます。当然これは政府の方針として情報を伝えているのですが、対策として行われるのが戦争中の警報を思い起こさせるJ-アラートだったり、新幹線を止めてみたり、防空頭巾まがいの代物を頭にかぶって地面に臥せる練習をしたりすることだったりすると、私のような戦中派は違和感を覚えずにはいられません。理由を申し上げます。まず、日本海に落ちるミサイルは出漁中の漁船などには十二分に情報をあげて危険回避を助けるのが肝要ですが、列島の上空、宇宙空間を飛んで太平洋の真ん中に落ちるものについて、いたずらに騒ぐのはよしたほうが良いと思います。なぜならば、領空というのはせいぜい1万メートルぐらいを言うので、それ以上はあまり問題にされません。まして上空550キロ或いは450キロといえば55万メートル、45万メートルです。大気圏などはるかに下、宇宙空間そのものですし、各国が打ち上げている人工衛星だってもっと下を飛んでいるのですが、誰も問題にしません。そんな高さまで上がったミサイルの弾頭は、丈夫にできているでしょうから大気圏に再突入しても燃えつきることはないでしょうが、ミサイルの他の部分、胴体などは間違いなく燃えて跡形もなくなるはずで。そうでなければ地球は隕石の雨にさらされてしまいます。

ですから政府や行政の行った対策は、私に言わせれば、主権者である国民を安心させるどころか、いたずらに不安をあおるだけだと思います。ミサイルは発射された時からずっと追跡していると政府は発表しました。ですからそれこそ原発や米軍基地でも狙われない限り、国民に急を告げる必要はないはずで。まして、新幹線をとめるなどナンセンスそのものではありませんか。

あまり国民を舐めないでほしい、そんな暇があったら原発の防備をしっかりとやってミサイルが落下しても大丈夫な措置を講じてほしい。それもしないで、警報だの防空演習だの、まして総選挙などにうつつを抜かさなしてほしいというのが、小学校6年の時に敗戦を迎えた私や、今でも生きている仲間たちの感想です。



### 広報から 大学セミナーハウスFANBOOKリニューアル！

ご好評いただいております大学セミナーハウスの案内冊子FANBOOKをリニューアルして発行します！表紙モデルは現役女子大生の木島杏奈さんをお願いしました。賛助会員の紹介は、幼体連スポーツクラブ様。小中学生のサッカークラブの皆さんに多目的広場での練習、セミナー室でのミーティング、SPAの実施など幅広くご利用いただいています。ゼミ合宿を企画中の先生方、ゼミ長さんをはじめ、建築にご興味のある方、音楽の練習場所をお探しの方に手にとっていただけたら幸いです。



セミナーハウス・ニュース No.193  
発行 = 公益財団法人 大学セミナーハウス  
2018年1月30日発行

発行人 = 鈴木康司 発行部数 = 2,000部  
編集 = 大学セミナーハウス 総務課  
制作 = 株式会社エム・ジー・ケイ